

ひと言 コラム

ほん ぎょう やき と しん せい やき 本業焼と新製焼

本業焼

重要有形民俗文化財
笹文石皿
18世紀後期
～19世紀前期



新製焼

重要有形民俗文化財
染付山水図水指
19世紀前期



江戸時代の後期にはじまった磁器生産は、民吉の伝えた磁器製法によって急速に発展しました。こうした中、新しい仕事という意味で磁器は「新製焼」と称されました。

一方、これまで長きにわたってつくられ続けた陶器は、瀬戸本来の仕事という意味で「本業焼」と呼び分けるようになりました。

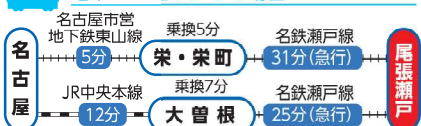
1000年以上の歴史を誇る せともののまち 陶都・瀬戸

愛知県瀬戸市は、名古屋市の北東約20kmに位置し、周囲を標高100～300mの小高い山々に囲まれ、気候も温暖なまちです。

良質で豊富な陶土に恵まれ、瀬戸市で焼かれるやきものは、「せともの」というやきものの代名詞として日本のみならず、世界の人々に知られるようになりました。先人たちは新しい技術や文化を柔軟に取り入れ、「せともののまち」を発展させてきました。

先人たちより引き継がれてきた「歴史」「伝統」「文化」、そして豊かな「自然」が、今もなお、瀬戸の暮らしに息づいています。

電車でお越しになる場合

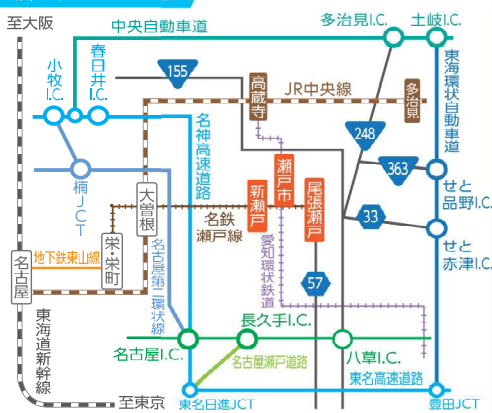


高蔵寺、岡崎方面からは愛知環状鉄道利用、瀬戸市駅下車、名鉄瀬戸線に乗り換えです。

お車でお越しになる場合

- 東海環状自動車道 せと赤津I.C.から(約10分)
- 東海環状自動車道 せと品野I.C.から(約15分)
- 名古屋瀬戸道路 長久手I.C.
(東名高速道路日進JCT経由)から(約15分)

瀬戸市へのアクセス



問い合わせ先

瀬戸市文化課
TEL:0561-84-1093 FAX:0561-85-0415
〒489-0884 愛知県瀬戸市西茨町113-3
(瀬戸市文化センター内)



このガイドマップは、歴史文化基本構想を活用した観光拠点づくり事業(文化芸術振興費補助金)を受けて作成しています。

日本遺産のまち瀬戸市
瀬戸を知る
テーマ別ガイド①

のんびりく
せとものまち

陶祖ゆがりの地を 巡るコース



陶祖・加藤四郎左衛門景正の足跡

陶祖・加藤四郎左衛門景正(通称:藤四郎/号:春慶)の生涯を記した藤四郎伝記は数多く残されています。これらの伝記によると、藤四郎は、後に永平寺を開山し曹洞宗の開祖となる道元禅師とともに貞応2(1223)年に中国へ渡り、やきものの技法を学んで帰国しました。その後、製陶に適した土を求め全国を巡る中、仁治3(1242)年に瀬戸の祖母懐に良い土を発見し、瀬戸で窯を開き、瀬戸焼の開祖となったとされています。毎年、4月の第3日曜日とその前日には、その偉業を称える「せと陶祖まつり」が開催されています。

藤四郎伝記は江戸時代以前には確認されておらず、中世にも藤四郎と関係する資料はいくつか存在しますが、いずれも伝説の域を出ないもので、その生涯は未だ解明されていません。

延享5年	1748	藤四郎の最古の伝記記録
宝暦2年	1752	8月5日、500回忌法要
文政7年	1824	陶彦社創建
嘉永3年	1850	位牌が宝泉寺に納められる
安政2年	1855	陶祖650年祭
明治38年	1905	正五位追贈
明治43年	1910	4月 瀬戸公園開園 6月 春慶翁700年祭
大正14年	1925	現在の陶彦社建造
昭和2年	1927	永平寺から院殿号の戒名が追贈
昭和27年	1952	陶祖700年忌
平成24年~平成27年	2012~2015	陶祖800年祭

陶祖顕彰のできごと



陶祖800年祭

瀬戸をあげて盛大に行われた「春慶翁700年祭」から100年が経過し、平成24(2012)年度から平成26(2014)年度に「陶祖800年祭」として、さまざまな事業を行いました。

ロゴマーク・マスコットキャラクター

陶祖800年祭を象徴するロゴマークとマスコットキャラクターを作成しました。マスコットキャラクター「藤四郎くん」は今でも多くの市民から愛されています。

瀬戸・藤四郎トリエンナーレ

瀬戸の土を「自ら採集し」「自ら粘土をつくり」「自ら制作する」世界でも類のない公募展を開催し、以降3年ごとに開催しています。



六角陶碑の内部調査

言い伝えでは、六角陶碑の中には、建設に尽力した加藤景登^{かげと}の娘が小石一石に一字ずつ記した法華経「一字一石経」が収められているとされていました。

六角陶碑完成後、約150年の時を経て、平成25(2013)年に陶祖800年祭事業の一環として、初めて上部の蓋が開けられ、内部調査が行われました。



調査の結果分かったこと

- 1 文字の字体からひとりの手ではなく、複数の人によって書かれていること。



- 2 一石につき一文字ではなく、複数の文字が書かれたものも多く存在すること。最大で一石に20文字を数えるものがあったこと。



調査から文字の数を試算すると約74,000文字となり、法華経經典一式分(69,384文字)は今も六角陶碑の中に収められていると思われます。

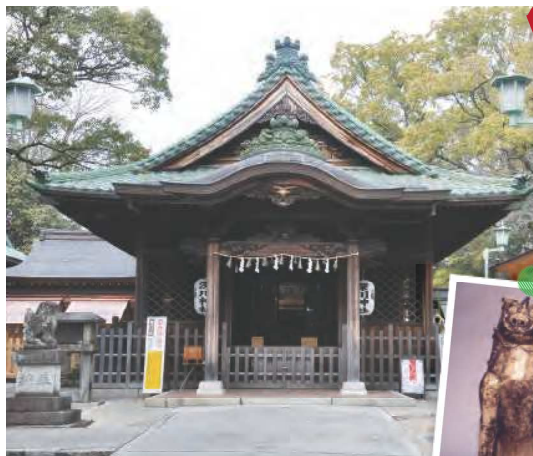




1 瀬戸蔵ミュージアム

瀬戸蔵ミュージアムは、瀬戸のやきものすべてがわかる必見の施設です。藤四郎が瀬戸で窯を開いたとされる時代に焼かれ始めた「古瀬戸」の数々も年代を追って展示されています。「古瀬戸」は中世の日本で唯一釉薬が施されたもので、瀬戸のやきものの歴史の中でも代表的なものといえます。

開館時間 午前9時～午後6時(入館は午後5時30分まで)
休館日 月1回程度臨時休館、年末年始
入館料 一般500円、高校・大学生・65歳以上の方300円、中学生以下・障害者手帳をお持ちの方・妊婦の方は無料※20名以上は団体割引あり。



2 深川神社・陶彦社

創建が奈良時代に遡るといわれている深川神社には、藤四郎作と伝えられている陶製狛犬が安置されています。本殿の東側に鎮座する陶彦社は文政7(1824)年に創建され、大正15(1926)年に遷宮が行われ今の姿となっています。藤四郎を祀っており、毎年4月に行われる「せと陶祖まつり」の御物奉^{すえもの}献行列で「陶物」を献上する儀式が行われます。

陶製狛犬(重要文化財)

藤四郎作と伝えられている灰釉の陶器製狛犬。古くは雌雄(阿吽)一対でしたが、そのうち一つが盗難にあったといわれており、現在は片形だけとなっています。(拝観有料)



3 陶祖春慶翁宅趾碑

藤四郎の宅跡を示す碑。昭和24(1949)年に建てられました。六角陶碑の碑文に、「陶祖の宅跡を中島といい、瀬戸村深川神社東辺の田園の中に在り、杉一株を樹て、以てしるしとなす。」と書かれていたため、杉の巨木があったこの地が宅跡とされました。



4 宝泉寺

市指定文化財である十六羅漢塑像や陶磁器の絵付職人が描いたとされる天井絵などがある曹洞宗の古刹。毎年11月には「お薬師さん(あめんぼまつり)」が盛大に行われます。寺宝として藤四郎作とされる瓶子があり、現在は瀬戸蔵ミュージアムで展示されています。



5 陶祖公園

名鉄瀬戸線尾張瀬戸駅から瀬戸川沿いに東へ行った高台にあります。瀬戸の中心部を一望できるとともに、公園内には藤四郎の業績を称える陶碑や室町時代から近代までの窯跡がいくつもあります。陶祖800年祭に伴い、平成26(2014)年に再整備され、「瀬戸公園」から「陶祖公園」に名称変更されました。



六角陶碑(市指定文化財)

藤四郎の業績を称えるため、慶応3(1867)年に名工といわれた加藤清助(景登)が中心となって建設されました。大小29個のやきものが組み合わさる六角陶碑は、高さ4.1m、総重量約2トンと陶製の碑としては日本最大といわれています。



景登翁之碑

明治24(1891)年に六角陶碑建造において多大な功績を残した加藤清助(景登)を称える陶碑として建設されましたが、同年に起きた濃尾地震で倒壊してしまい、現在の姿は昭和14(1939)年に修復されたものです。



陶柵

陶祖800年祭の際に、以前設置されていた加藤紋右衛門制作の青磁と瑠璃釉の円柱に藤の花を図案化した磁器製の柵を復元したものです。



園名碑・陶の階段

園名碑及び陶の階段の蹴上部分の陶板は、瀬戸陶芸協会の会員によって制作されました。園名碑の揮毫は宝泉寺出身の總持寺貫首、江川辰三禅師によるものです。



志野焼燈籠(市指定文化財)

志野釉が施された陶製の燈籠で、「明治五年壬申三月」の銘があります。製作者は六角陶碑と同じ加藤岸太郎です。高さ285cmと陶製燈籠としては、国内最大級の大きさです。



「瀬戸公園」園名碑

六角陶碑が建設された藤四郎山が、明治43(1910)年に開催された陶祖700年祭の際に「瀬戸公園」と名付けられ、当時は公園の入口にこの園名碑が設置されていました。



狛犬を愛でる陶祖之像

陶祖800年祭の際に瀬戸市出身の彫刻家である加藤昭男氏が制作した陶祖像です。



夕日窯跡

公園内には戦国時代の窯跡があります。その当時つくられたやきものの一部が発掘調査によってみつかり、現在、その出土状況が展示されています。



 駐車場 トイレ インフォメーション

所要時間：2～3時間

ノベルティマヒモ倉造館
ノベルティミュージアム

